令和2年度
木造住宅・都市木造建築物における生産体制整備事業
（うち、大工技能者等の担い手確保・育成事業）

実施概要

１）団体主導型による取組概要

① 全国建設労働組合総連合
②（一社）ＪＢＮ・全国工務店協会
③（一財）住宅産業研修財団
④（一社）全国木造建設事業協会
⑤（一社）日本木造住宅産業協会
⑥（一社）全国住宅産業地域活性化協議会
⑦（一社）全国古民家再生協会

２）地域連携型による取組概要

⑧（一社）北海道ビルダーズ協会
⑨（一社）福島県工務店協会
⑩（一社）にいがた木造建築協会
⑪（一社）富士山木造住宅協会
⑫（一社）宮崎県建築業協会
⑬（一社）東京大工塾
⑭（一社）石川県木造住宅協会
⑮愛知県建設団体協議会
⑯（一社）東北建設技能協会
⑰日本の伝統的大工塾

令和2年度　建築大工の担い手確保・育成支援事業（全国建設労働組合総連合）

1．全体概要

実施地域	**長期訓練6地域（茨城県、東京都、神奈川県、島根県、広島県、徳島県）**	
事業期間	令和2年4月23日～令和3年3月5日（**約10ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：64名**（男性61名、女性3名） **確保：48名**（工業高校生40名、教員8名）
受講者属性	種別	大工：（見習いを含む）**64名**
	年齢構成	20歳未満：**6名**、20-24 歳：**18名**、 25-29 歳：**13名**、30 代：**19名**、 40代以上：**8名**
座学・実技研修	座学	**60回**（茨城：8回、東京：4回、神奈川5回、島根9回、広島30回、徳島4回）
	実技	**94回**（茨城：18回、東京：8回、神奈川8回、島根13回、広島37回、徳島10回）
	計	**154回**（座学：171.5h、実技：453.5h）

2．研修活動等の概要

○長期訓練では、技能者の処遇改善に向けてCCUSの技能者情報登録を促進するとともに、建築大工技能者能力評価基準において、レベル2以上の判定を受けられるよう、必要な技術・技能の習得に向けた取り組みを支援。集合訓練を主体に、分散訓練も実施。
○カリキュラムは「登録建築大工基幹技能者講習　技能開発計画」の教育訓練モデル等を参考に各地域で設定。
○長期訓練の他に、長期受講が困難な若年大工技能者を対象に短期訓練を実施。10地域28人が受講。87回472.5h実施。
○その他、確保事業として工業高校生に対するキャリア教育等を実施

3．事業の効果・成果等

○座学では「社会人基礎講習」や「労働安全衛生管理」など現場に出るうえで最も基本的なことから学び、実技では「道具の使用法と手入れ」を改めて習得し「仕口、継手の加工・組立」を正確に早くできるよう繰り返し訓練することで着実に成長することができた
○受講者アンケートで学科・実技の理解度、受講しての技術・技能に関する自己評価はいずれも9割近くの高い水準であった。講師アンケートでも受講者の技術・技能について「向上した」が57.4%と一定の水準となった。
○受講者CCUS技能者登録率＝17.2%、レベル2以上判定率＝0.0%
○講師CCUS技能者登録率＝27.7%、レベル3以上判定率＝35.7%

令和2年度　地域の工務店を中心とした地域連携大工育成プログラムの構築と実証（（一社）JBN・全国工務店協会）

1．全体概要

実施地域	**大工育成（全11ヵ所）・リフォーム講習会（全10ヵ所）** **山形・福島・埼玉・千葉・新潟・山梨・長野・徳島・香川・愛媛・福岡・熊本・宮崎・鹿児島**	
事業期間	令和2年5月29日～令和3年3月5日（**約9ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：78名**（男性64名、女性14名）（大工育成） **200名**（男性200名）（リフォーム講習）
受講者属性（大工育成）	種別	**大工：78名**（見習いを含む）
	年齢構成	10代：**7名**、20-24 歳：**38名**、25-29 歳：**12名**、30 代：**14名**、40代以上：**10名**
座学・実技研修（大工育成）	座学	**63回**（実施全地域で実施：平均6.3回）
	実技	**101回**（実施全地域で実施：平均10回）
	計	**164回**（座学：258h、実技：747h）

2．研修活動等の概要

○全国12地域を対象としたCCUSにおけるレベル1の大工技能者をレベル2に達するように3年間育成を実施
　※　富山は、コロナ・担当者病欠等で今年度事業実施を断念
○確保にかかる事業として山形・愛媛・福岡の3カ所でWGを設置し各5回、計15回のWGを実施

○地域の工務店を対象としたリフォーム講習会を10カ所で実施

3．事業の効果・成果等

○受講者の大工技能者職業能力の向上
「職業能力評価シート」によって習熟度の確認を行い、受講者本人・講師・雇用者（上長）によって評価し能力向上を確認を行い、受講者の能力向上を認めた
○確保にかかるWGにおいて、就業環境の整備から整えることとして、モデルとなる就業規則や賃金規程の検討を行い、モデル案を策定し、次年度以降の新規大工確保に向けた取組みの確認が出来た。
○コロナ禍でもある為、対面講習をWEB講習に切り替え全国10カ所で実施し200名の参加となった

令和2年度　大工志塾　（一財）住宅産業研修財団

1．全体概要

実施地域		**福島県、東京都、石川県、長野県、愛知県、大阪府、福岡県（全7ヵ所）**
事業期間		令和2年4月23日～令和3年3月5日（**約11ヵ月**）
受講者数	実数	**育成：70名**（男性64名、女性6名） 1期生20名、2期生24名、3期生26名
受講者属性	種別	**大工：70名**（見習いを含む）
	年齢構成	10代：**12名**、20-24 歳：**35名**、 25-29歳：**11名**、30 代：**8名**、40代：**4名**
座学・実技研修	座学	**全　体：115回**（東京・愛知・大阪・福岡 各23回、福島9回、石川8回、長野6回） 1期生：45回（福島・東京・愛知・大阪・福岡　各9回） 2期生：40回（東京・愛知・大阪・福岡・石川　各8回） 3期生：30回（東京・愛知・大阪・福岡・長野　各6回）
	実技	**全　体：5回** 1期生：2回（四阿、1・2級建築大工技能検定課題演習） 2期生：2回（五重塔、1・2級建築大工技能検定課題演習） 3期生：1回（合掌造）
	計	**120回**

2．研修活動等の概要

○工務店に所属する若手大工等を対象に、伝統的な木造軸組構法に関する「知識・理論」と「技術・技能」の両面を兼ね備えた大工技能者として育成すべく、3つの育成プログラムに基づき教育指導を行う。

1）座学：毎月1回・2コマの講義を各地で実施。今年度は新型コロナウイルス対策として、一部講義をオンライン形式で実施

2）OJT：基本的な礼儀や道具の扱い、座学「規矩術」の宿題、「集合実技研修」の課題等を塾生が所属する工務店の指導棟梁が指導

3）集合実技研修：年に1～2回、群馬県神流町に塾生が集合し、合宿で様々な課題制作や体験学習等を行う

3．事業の効果・成果等

○所属工務店から塾生への評価（OJT）

・蟻継ぎや渡り顎等の基本的な継手・仕口ができるようになった

・簡単なリフォーム工事であれば一人で任せられるレベルになった

○建築大工技能検定

・令和元年度の2級試験に**14名が受検、3名が合格**（学科は10名合格）

・令和2年度は**1級試験に9名、2級試験に32名が受検予定**

○コミュニケーション

・総じて塾生同士の仲が良く、集合実技研修では互いに切磋琢磨する姿も見られ、良い刺激を与え合っている

・塾生・講師間も、塾生の補講を申し出、それに講師が応える等、良いコミュニケーションが生まれている

座学（オンライン）

四阿（あずまや）

五重塔

1・2級建築大工技能検定課題

令和2年度　災害時に対応するための大工技能者等の技術・技能向上研修会（（一社）全国木造建設事業協会）

1．全体概要

実施地域	**秋田県、山形県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、福井県、山梨県、大阪府、島根県、山口県、徳島県、福岡県、大分県、宮崎県（全15ヵ所）**	
事業期間	令和2年5月29日～令和3年3月5日（**約10ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：319名（男性319名）**
受講者属性	種別	**大工：319名（見習いを含む）**
	年齢構成	10代：**3名**、20-24 歳：**18名**、25-29 歳：**27名**、30 代：**117名**、40代：**154名**
座学・実技研修	座学	**14回（【応急修理】4会場：4回、【図面・施工・管理】10会場：10回）**
	実技	**1回（1会場：1回）**
	計	**15回**

2．研修活動等の概要

○**【応急仮設住宅実習訓練研修会】**応急仮設住宅建設の界壁施工や断熱施工を中心とした講習会を行い、大工技能者の知識・施工能力の向上を図った

○**【応急修理対応研修会】**修理方法、被災者への支援方法、修理のポイント及び注意点等を学ぶ講習会を行い、大工技能者の知識・施工能力の向上を図った。

○**【応急仮設住宅図面・施工・管理研修会】**大工技能者に対して、配置計画、図面及び仕様を事前に共有・説明し、実例を踏まえた工程・施工方法等を学んだ。

○**【全国研修会】**研修会では、都道府県毎に作成した応急仮設住宅図面を共有し、各図面の特徴や施工時の注意点を説明し、情報共有を図った。

3．事業の効果・成果等

○**【応急仮設住宅実習訓練研修会】**日常的に界壁施工や断熱施工を行っていない大工技能者も多く界壁施工や断熱施工がおろそかになると遮音や温度性能等に差が生じることとなるが、研修会を受講することで界壁・断熱施工の重要性と対応を理解することができた。

○**【応急修理対応研修会】**応急修理は、応急仮設住宅の建設とは違い、様々なニーズに、より迅速に対応する必要があるため、災害時には地域工務店の大工技能者の重要な役割となるため、修理対応等を理解することで迅速な対応が可能となる。

○**【応急仮設住宅図面・施工・管理研修会】**災害時にこの研修を受けた大工技能者をリーダーとして、建設現場での段取りや工程をスムーズに進めることができるようになり、災害時に木造応急仮設住宅を迅速に建設することが可能となる。

令和2年度　地域性を踏まえた木造軸組大工技能の短期集合型講習事業　（一社）日本木造住宅産業協会

1．全体概要

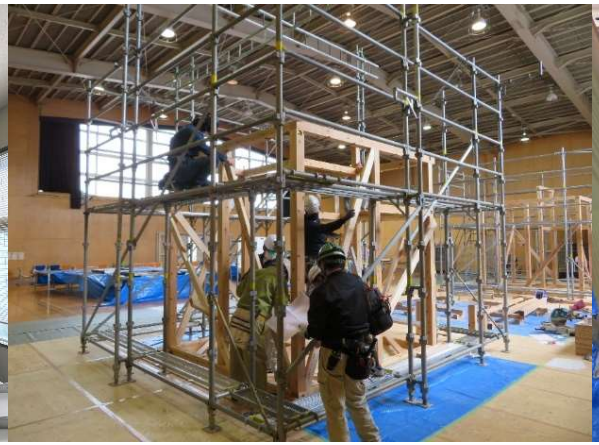
実施地域	**静岡県静岡市**	
事業期間	令和2年6月3日～令和3年3月19日（**約9ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：4名**（男性4名、女性0名）
受講者属性	種別	**大工：（見習いを含む）4名**
	年齢構成	20-24 歳：1名、25-29 歳：0名、30 代：2名、40代：1名
座学・実技研修	座学	**2回**（静岡県、実技と同時に実施）
	実技	**5回**（静岡県、座学と同時に実施）
	計	**7回**（5泊5日で座学・実技を同時に実施）

2．研修活動等の概要

○連続する5日間（5泊5日）の短期集中型講習（7時間/日×5日間、計35時間（座学4時間、実技31時間））により、木造軸組工事に携わる大工技能者として必要な基礎的な知識・技能を学ぶ。
○実技は、OJTでは経験する機会が限定される墨付け・加工、階段工事等の作業手順や注意点、作業安全性（丸のこの使い方、足場の組み立て等）の注意点等を中心とした構成としている。
○座学では、社会人としての基礎、木造軸組構法や接合部金物の仕様、概要等を中心とした構成としている。

3．事業の効果・成果等

○各日の指導内容ごとに整理したチェックシート（3段階）を用いた効果測定において「理解が深まった」が受講者の2/3を超えた項目が70%以上（目標70%）であり、高い講習効果が得られた。
○受講生の満足度は「非常に満足（1名）」、「満足（3名）」と高く、同様の講習があれば「参加したい（4名）」との結果であった。また講習で学んだことを「通常業務で活かしたい（3名）」との結果が得られており、実務につながる実践的な講習となっていると考えられる。
○事業により組織した大工技能者育成委員会での検討、及び木造軸組技能の基礎コースin静岡での実践を通じ、高い汎用性を持つ講習プログラム、実技用モデル等の開発・整備を行った。



令和2年度地域の建材店を中心とした地域の会大工担い手育成事業（（一社）全国住宅産業地域活性化協議会）

1．全体概要

実施地域		**鹿児島県・長崎県・香川県・山口県・広島県・福山県・岡山県・鳥取県・大阪県・山梨県・福井県・岩手県（全12ヵ所）**
事業期間		令和2年5月1日～令和3年3月5日（**約10ヵ月**）
受講者数	実数	**育成：65名**（男性60名、女性5名）
受講者属性	種別	**大工職人：50名（見習いを含む）** **設計等：3名** **営業：12名**
	年齢構成	20歳未満：**16名**、 20-24 歳：**31名**、25-29 歳：**6名**、 30 代：**6名**、40代以上：**6名**
座学・実技研修	座学	**100回**（実施全地域で実施：平均8.3回）
	実技	**150回**（実施全地域で実施：平均12.5回）
	計	**250回**（座学：307 h、実技：1,019 h）

2．研修活動等の概要

○全国12地域を対象としたCCUSにおけるレベル1の大工技能者をレベル2 に達するように3年間育成を実施又、実施をサポートする委員会を定期的に実施

○地域の工務店を対象とした大工育成への取組みの啓蒙とOB顧客を対象とした住宅の維持管理に向けた取組みの強化を目的とした研修会を実施

3．事業の効果・成果等

○受講者の大工技能者職業能力の向上
「職業能力評価シート」によって習熟度の確認を行い、受講者本人・講師・雇用者（上長）によって評価し能力向上を確認を行い、受講者の能力向上を認めた

○地域としての取組みの共有と新たな地域による大工育成の取組みによって、次年度以降の新たなカリキュラムの検討が行えた

令和2年度　伝統構法に関わる技術者育成プログラム（(一社)全国古民家再生協会）

1．全体概要

実施地域	**群馬県・千葉県・東京都・富山県・岐阜県・愛知県 滋賀県・京都府・長崎県・熊本県・宮崎県・福岡県 （全12ヵ所）**	
事業期間	令和2年8月1日～令和3年2月20日（**約7ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：92名**（男性92名）
受講者属性	種別	**大工：92名**（見習いを含む）
	年齢構成	10代：**8名**、20-24 歳：**26名**、 25-29 歳：**16名**、30 代：**28名**、 40代：**14名**
座学・実技研修	座学	**22回**（全国各地）
	実技	**22回**（全国各地）
	計	**44回**

2．研修活動等の概要

○全国で墨付け・手刻みを基本とする企業に受け入れていただき、座学ならびに実技を通じて技術者の育成に努める。
○また一般の方向けへ体験プログラムを実施することで自らの技量を高める機会の創出に繋げる。

3．事業の効果・成果等

○座学では統一のテキストを用いて学習をするため受け入れ企業間での格差は少なかったように思える。
○受講者はもとより、指導をおこなう職人に対しても育成プログラムの実施は有効であったと感じる。
○この育成プログラムを通じて受講者が手刻みを拡げ職人の技術継承の必要性を感じた声が多く、成果はあったと思える。

令和2年度　北海道の工務店ネットワークよる大工育成（(一社)北海道ビルダーズ協会）

1．全体概要

実施地域	**北海道**	
事業期間	令和2年5月29日～令和3年2月8日（**約9ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：22名**（男性19名、女性3名）
受講者属性	種別	**大工：22名**（見習いを含む）
	年齢構成	10代：**1名**、20-24 歳：**16名**、25-29 歳：**4名**、30 代：**1名**
座学・実技研修	座学	**12回**　（ポリテク会場：7回、若手講話会：1回、技能向上：4回）
	実技	**5回**　（若手講話会1回、技能向上：4回）
	計	**17回**

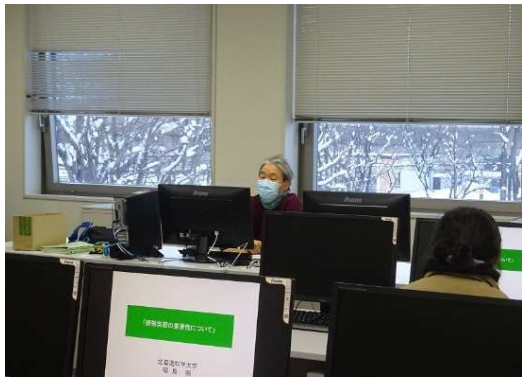
2．研修活動等の概要

1)大工育成委員会　4回　（委員10名）
2)新人大工座学　　7回　（座学研修）
3)新人大工講話　　1回　（座学/実技研修）
4)技能向上研修会　4回　（実技）
5)大工の社員化等に関するアンケート 1回

実技指導をポリテクセンター北海道と連携を図り実施
プログラムを共同で作成、ポリテクセンター北海道の設備を活用
6)新人大工実技　　39回（講師：ポリテクセンター北海道）
　・1年11人23回、2年6人9回,3年5人7回　（1回：6時間）

3．事業の効果・成果等

1）新人大工の技能の向上、大工としての自覚と必要とされる基礎的情報を提供することが出来た。また、断熱・気密等に関しての講義を集中し、北海道で重要な断熱工事に関する知見を得るなどの大きな成果が得られた。
2）技能向上研修会を開催し、大工技能士の資格取得に向け1級、2級相当の技術向上できた、
3）アンケートにより、「若手大工の採用と離職」実態が捉えられ「若手大工の育成は必要」「入社希望者がいない」「育成システムがない」と対応策の必要性が明らかになった。



令和2年度 『働き方改革取組「雇用環境改善ー採用・職場環境・職場定着率」及び「大工技能者における規矩術研修」』（一般社団法人福島県工務店協会）

1．全体概要

実施地域	**福島県**	
事業期間	令和2年5月29日～令和3年2月10日（**約8ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：14名**（男性14名、女性0名） **確保：20名**（男性18名、女性2名）
受講者属性	種別	**大工：（見習いを含む）14名** **経営層・労務管理者：20名**
	年齢構成	10代：**6名**、20-24 歳：**7名**、25-29 歳：**0名**、30 代：**1名**、40代：**20名**
座学・実技研修	座学	**3回（福島**会場：2回、郡山会場：1回）
	実技	**12回**（福島会場：12回）
	計	**15回**

2．研修活動等の概要

○育成：基本的な技能の習得と併せて地域優良住宅や省エネ住宅等の建設に携わることの出来る能力、木材加工技術の体得やマネジメント力を有する技術者としての知識を身につけるなど、新人・中堅技能者に応じた資質の向上を図る。

○確保：雇用改善研修会を実施。就業規則の整備を軸に建設業の遅れた現状と就職活動を行う学生の現状を認識し、経営者・管理者としての職場環境改善に取り組む。

3．事業の効果・成果等

○墨付けの基本や展開図の読み方・書き方、手刻みを多くの時間をかけて学ぶことにより、大工としての仕事の幅広さや家を建てることへの面白みを再度認識したと意見が多くあがった。

○本研修会を通じて、働き方改革とは、自社の問題点はなんなのかを受講者は認識をすることができ、自社の働き方に対する変革のきっかけになった。

令和2年度　新潟の“次世代への若手指導者育成”及び大工職人育成の実践規矩術講習　（一社）にいがた木造建築協会

1．全体概要

実施地域	**新潟県・燕市**	
事業期間	令和2年9月10日～令和3年2月10日（**約6ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：21名**（男性21名）
受講者属性	種別	**大工：18名**（見習いを含む） **その他（事業主等）：3名**
	年齢構成	20-24歳：**3名**、25-29歳：**1名**、 40歳以上：**17名**
座学・実技研修	座学	**3回**（会場・西蒲原高等職業訓練校：3回）
	実技	**6回**（会場・西蒲原高等職業訓練校：6回）
	計	**9回**

2．研修活動等の概要

○若手指導者育成講習

規矩術指導者の高齢化に伴い、次世代の若手指導者の育成が急務となっている。以前の競技会等の課題を検証することにより、課題に対する課題に対する検討、検証方法等を習得し指導者としてのノウハウを習得。

○大工職人育成の実践規矩術講習

大工職人への伝統的な住宅建築の技能、技術、知識の伝承が急がれる現在、「伝統的木構造・棒隅木」を課題し、実践的な差し金の手法を習得し合わせて、墨付け・刻み・組立ての手法も習得する。

3．事業の効果・成果等

○若手指導者育成講習

以前の競技会課題である「六角形転び柱建て小屋組」、「正五角形小屋組」を課題とし、検証・検討を行い解き方、部材の展開方法等の習得を図り、若手指導者としての成果、期待が持てる。

○大工職人育成の実践規矩術講習

機械化による加工が多用される現在、差し金の手法、手刻みによる加工、組立を実践的に行うことにより、伝統的な木造住宅における技能、技術の伝承を図ることができ、大工職人の育成に効果が十分期待が持てる。

令和2年度　静岡大工育成PROJECT（（一社）富士山木造住宅協会）

1．全体概要

実施地域	**静岡県東部地区・西部地区**	
事業期間	令和2年6月20日～令和3年1月31日（**約7ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：17名**（男性14名、女性3名）
受講者属性	種別	**大工：17名**（見習いを含む）
	年齢構成	20-24 歳：**9名**、25-29 歳：**5名** 30 代：**2名**、　40代：**1名**
座学・実技研修	座学	**4回**（西部会場：2回、東部会場：2回）
	実技	**22回**（西部会場：11回、東部会場：11回）
	計	**26回**

2．研修活動等の概要

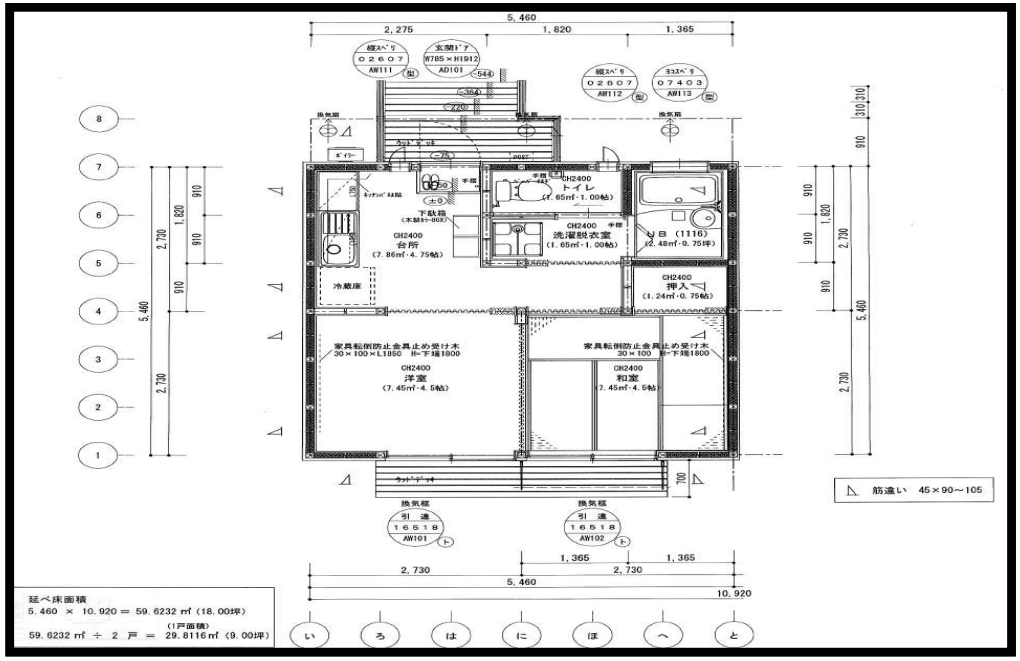
木造技能者育成検討委員会が設定している「レベル1」を目標とする木造軸組み在来工法を対象に下記のカリキュラムを静岡県西部（静岡木の家ネットワーク）と静岡県東部（富士山木造住宅協会）各13回の研修会を開催した。9坪タイプの木造住宅の構造躯体及び台持ち継ぎ・追掛け大栓継ぎ・金輪継の手刻みの応用も完成することができた。

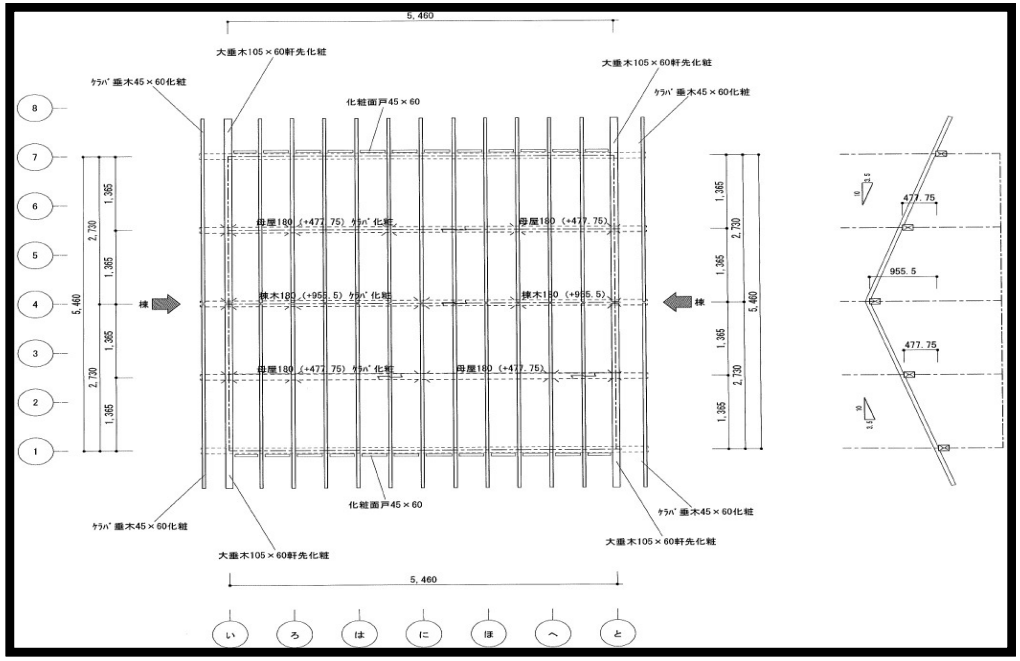
3．事業の効果・成果等

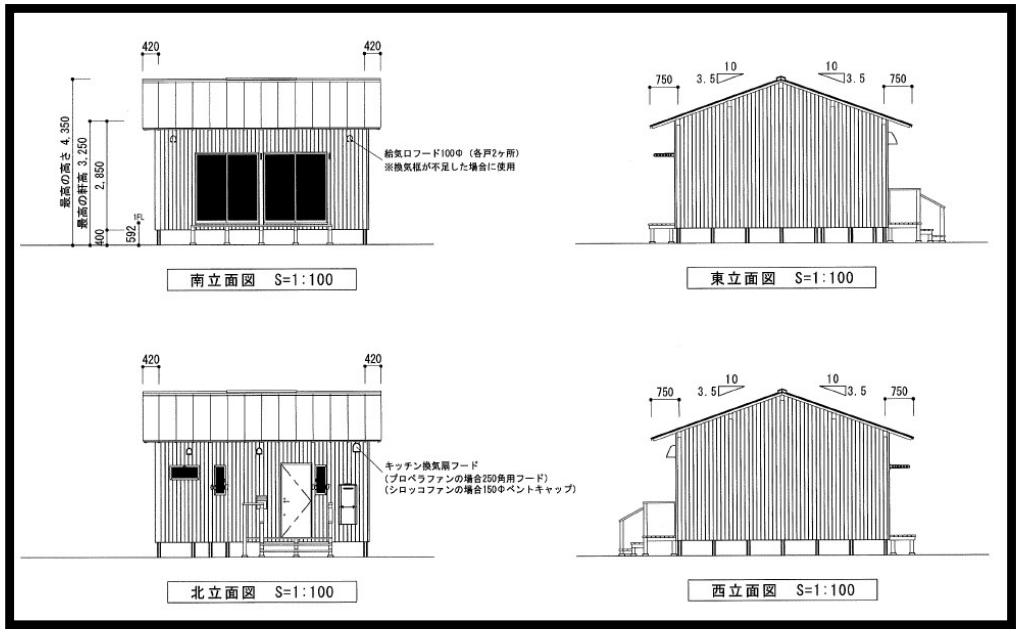
静岡県のJBN連携団体の富士山木造住宅協会と静岡木の家ネットワークが連携することにより、2年間で39名の新人大工の育成ができた。新人大工は、研修会の受講により、①大工の心得、②施工法や寸法の裏づけの習得、③機械化された作業の中で失われつつある墨付け・手刻み等の修養、④幅広い技術の習得等の成果が得られた。

それにより、静岡県内の新人大工育成の体制整備などの実現につながることができた。

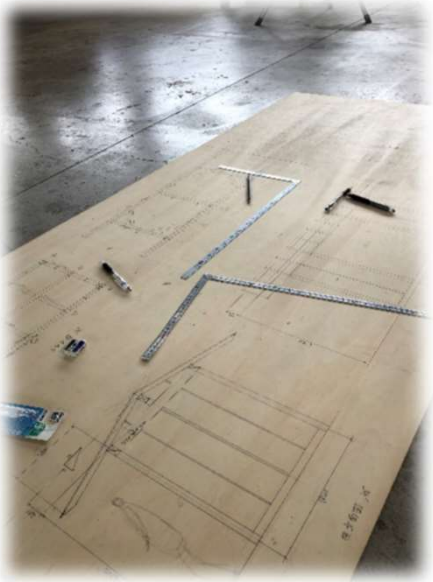
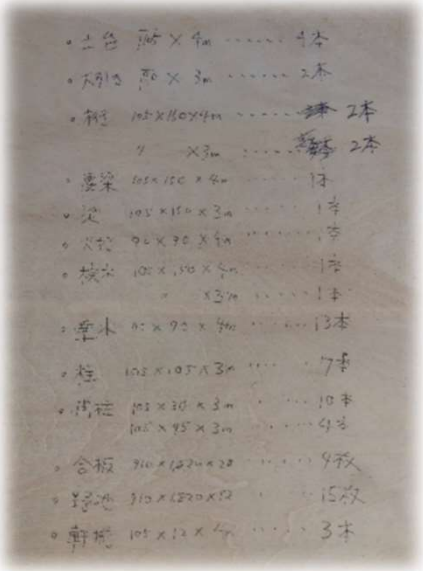
令和2年度　静岡大工育成PROJECT（(一社)富士山木造住宅協会）







西部会場(静岡県磐田市)

東部会場(静岡県富士市)

令和2年度　ひむか大工塾（(一社)宮崎県建築業協会）

1．全体概要

実施地域	**宮崎県**	
事業期間	令和2年6月1日～令和3年2月10日（**約8ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：7名**（男性6名、女性1名）
受講者属性	種別	**大工：7名**（見習いを含む）
	年齢構成	20-24歳：**4名**、25-29歳：**3名**
座学・実技研修	座学	**1回**（宮崎高等技術専門校：1回）
	実技	**12回**（宮崎高等技術専門校：12回）
	計	**13回**

2．研修活動等の概要

○住宅建設や既存住宅のリフォームを推進するため、規矩術を理解し、増改築等の現場で活用できる人材の育成を目的として、平成30年度から若手大工の育成に取組んでいる。

○本年度は、『規矩術の基本』に重点を置いて、『職業意識、安全意識』の学科を加えた集団研修を実施した。

3．事業の効果・成果等

○技能・技術について

「さしがねの使用法基本」、「規矩術の勾配基本図」、「棒隅木」、「四方転び」、「現寸図作成及び墨付け・加工・組立て」等、規矩術の基本を学ぶことにより、住宅建設や既存住宅のリフォームや修繕に欠かせない基本的な知識・技能を習得することができた。

○職業意識、安全意識について

「社会人・職業人としての自覚と責任」、「社会人・職業人としてのマナー」、「リフォーム現場のトラブル回避ノウハウ」、「安全作業、危険予知、災害防止、応急処置」等に関する正しい知識を理解して行動する意識を高めることができた。

○集団研修の理解度・到達度の検証について

実技試験課題「柱建て四方ころび踏み台」を作成するとともに採点基準を作成して実技試験を実施した。試験の結果7人中6人（1人病欠）が合格し、概ね目標を達成したことが検証されるとともに、受講者ごとの理解度・到達度を講師間で確認・共有することができた。

また、理解度・到達度の検証を補完するため、「大工技能者職業能力評価シート」を活用したが、規矩術に関連する項目が限られていることから開講時と修了時に大きな差異は認められなかった。

令和2年度　一般社団法人「東京大工塾」会員工務店の社員大工への大工育成プログラム((一社）東京大工塾）

1．全体概要

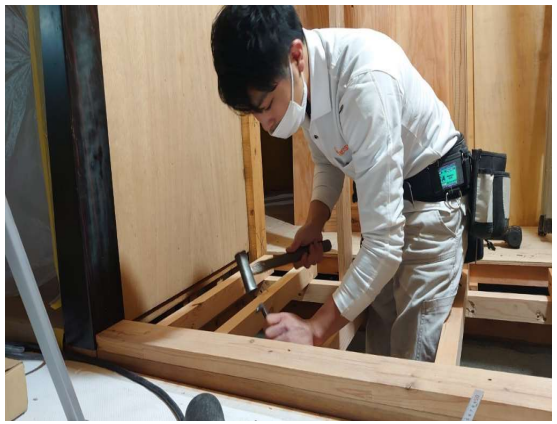
実施地域	**東京都・埼玉県**	
事業期間	令和2年6月1日～令和3年2月5日（**約9ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：6名**（男性6名）
受講者属性	種別	**社員大工：6名**（見習いを含む）
	年齢構成	10代：**1名**、20-24 歳：**4名** 25-29 歳：**1名**
OJT	OJT指導	**112日/名**（工務店の各現場にて8H/日）
	指導内容	安全衛生、道具の使用と手入れ 作業工程、作業方法　等

2．研修活動等の概要

○当会に所属する工務店が大工を社員として雇用。
○入塾生6名のOJT指導については、当会と工務店の間で「OJT指導契約」を締結。
○当会と工務店で選定した指導者による指導を行う。ことで指導内容にバラつきのない教育を実施。

3．事業の効果・成果等

○指導者の選定及び指導内容の共有により、研修者全員が同等の質の研修を受けることが出来た。
○離職者数を抑制することが出来た。
○今回の研修生自身が、各指導者から同等の内容の指導を受けたことにより、次期入塾生の兄弟子候補として活躍するであろうことが期待できる。



令和2年度 地域における木造住宅施工技術者育成研修事業(（一社）石川県木造住宅協会）

1．全体概要

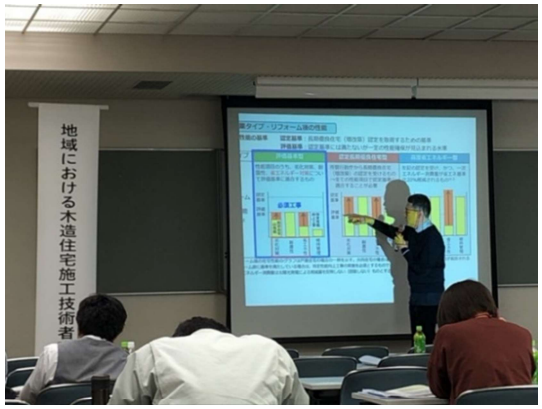
実施地域	**石川県**	
事業期間	令和2年6月24日～令和3年1月31日（**約7ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：63名**（男性45名、女性18名）
受講者属性	種別	**大工：3名、建築士：12名、工務・管理：15名、営業15名、その他（設計等）18名**
	年齢構成	10代：**2名**、20-24歳：**5名**、25-29歳：**7名**、30代：**18名**、40代以上：**31名**
座学・実技研修	座学	**4回**（石川県）
	実技	なし
	計	**4回**

2．研修活動等の概要

石川県内の大工技能者等及び技術者の担い手確保及び育成の取組みと木造住宅等の生産体制の整備を図ることを目的に、木造住宅供給に係る基礎的知識及び建築関係法や施工技術に係る研修と地域の優良な住宅ストックの維持管理や新築住宅における省エネルギー住宅の断熱・気密施工の研修を実施する。

3．事業の効果・成果等

中小工務店や大工技能者が、木造住宅等の生産体制の整備を図ることを目的とした木造住宅供給に係る基礎的な項目や、リフォーム工事等における、現場施工に係る項目等、本事業を通して建築に係る知識をあらためて修得することができた。また、省エネ性能が高い住宅施工の断熱や気密についての知識を習得することができ、国が進める脱炭素社会に向けて、省エネ住宅への取組みが促進される。



令和2年度　地域ネットワークによる大工技能者確保・育成事業（愛知県建設団体協議会）

1．全体概要

実施地域	**愛知県**	
事業期間	令和2年5月29日～令和3年1月31日（**約8ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：5名**（男性5名）
受講者属性	種別	**大工：5名**（見習いを含む）
	年齢構成	10代：**2名**、20-24 歳：**3名**
座学・実技研修	座学	**9回**（愛知県：8回、長野県：1回）
	実技	**18回**（愛知県：17回、長野県：1回）
	計	**27回**（愛知県：25回、長野県：2回） 実施日数：20日（座学・実技同日開催有）

2．研修活動等の概要

○ 地域の住宅産業団体（JBN・全建総連・住活協）の有志が連携した地域ネットワークを構築し、手空き技能者の活用による仕事の平準化と新規入職者の確保・育成の有用性を検証し実証に向けた委員会を開催、協議した。

○ 育成事業として、CCUSレベル2に満たない初級大工の育成とオンラインによるリフォーム講習会を実施した。

3．事業の効果・成果等

○ 5名（CCUSレベル1の1-①：3名、1-②：1名、1-③：1名）に対して座学・実技の研修を行い1-③の受講者のCCUSレベル2相当への成長を認め、次年度の卒業を可とした。また、今年度の研修状況を確認し、次年度以降のカリキュラムの作成を行った。

○ 新規就業者の確保に向けて、就業環境の整備から整えることとして、モデルとなる就業規則や賃金規程の検討を行い、モデル案を策定した。

令和2年度　被災地東北における大工技能者担い手育成（(一社)東北建設技能協会）

1．全体概要

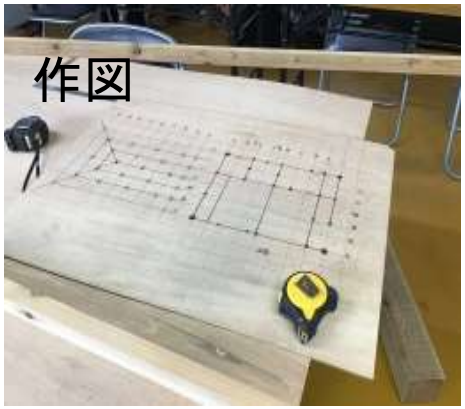
実施地域	**宮城県**	
事業期間	令和2年6月1日～令和3年2月10日（**約8ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：10名**（男性8名、女性2名）
受講者属性	種別	**大工：10名**（見習いを含む）
	年齢構成	10代：**1名**、20-24 歳：**4名** 30代：**1名**、40代：**4名**
座学・実技研修	座学	**3回**　（東北グレーダー：3回）
	実技	**36回**　（大仙台支店：33回、東北グレーダー：3回）
	計	**39回**

2．研修活動等の概要

平屋の木造住宅一戸の建築を通じ、木造建築・建設業界で求められる人材になるため、また資格取得などのため、さらには将来大工職人として独立するため、実践の場で必要な知識や技術を習得します。木造建築・現代住宅づくりを体系的に学ぶことで、現場全体を把握し、自ら動ける人材の育成を実現します。

3．事業の効果・成果等

実習で、本物の木材・建材を使用して、墨付け刻みから仕上げまでの作業を、建築した住宅一棟が最大の成果物です。
塾生は、住宅建築実習により建物の構造から理解することで具体的な修繕方法や補強についても習得することができました。震災復興や今後起きうる大規模災害でも、即戦力としてその技術を活かすことが可能になりました。



令和2年度　被災地東北における大工技能者担い手育成（(一社)東北建設技能協会）

座学

作図

墨付け、刻み、電動工具

足場、組立

令和2年度　被災地東北における大工技能者担い手育成（(一社)東北建設技能協会）

構造、金物

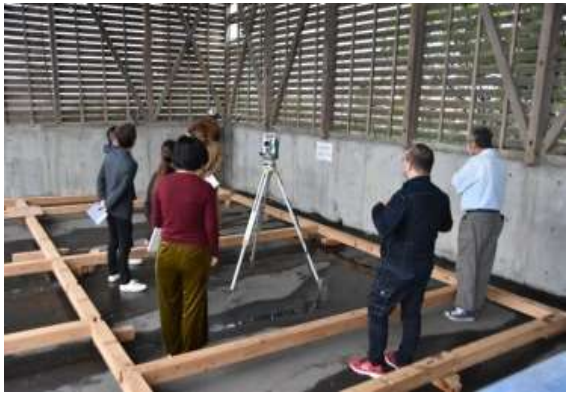
上棟

屋根、床組

サッシ、気密断熱、床、壁、天井、仕上げ

令和2年度　被災地東北における大工技能者担い手育成（(一社)東北建設技能協会）

測量、ドローン



小型車両系、小型移動式クレーン

山林見学

令和2年度　地域連携型による伝統的大工の担い手発掘及び育成（日本の伝統的大工塾）

1．全体概要

実施地域	**山形県**	
事業期間	令和2年6月1日～令和3年2月7日（**約7ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：11名**（男性9名、女性2名）
受講者属性	種別	**大　工：9名**（見習いを含む） **建築士：2名**
	年齢構成	10代：**1名**、20-24 歳：**1名**、 25-29 歳：**2名**、30 代：**2名**、 40代以上：**5名**
座学・実技研修	座学	**3回**（庄内町：1回、 施設見学にて庄内地域：2回）
	実技	**18回**（鶴岡市：9回、庄内町：9回）
	計	**21回**

2．研修活動等の概要

○鶴岡市内に残る**伝統構法熟練職人**を講師とし、実技をメインとした**伝統構法講座を行う塾**として活動。

○応募した塾生の力量を見極め、経験ゼロ～5年未満の初級・中級チームと実務5年以上の中級・上級チームに分け、それぞれで講座を開講した。

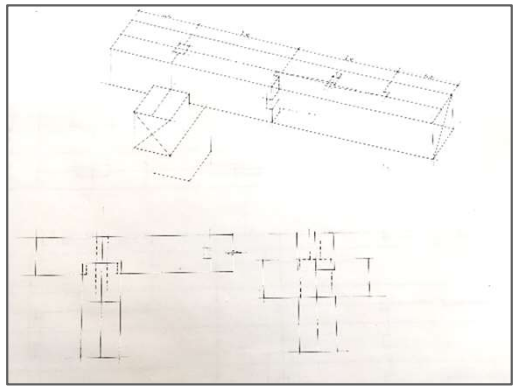
3．事業の効果・成果等

○プレカット＋金物と、手刻みの応力伝達など違いや、ほぞ・仕口・継手の位置関係などをイメージしながら実習を行えた。（初級・中級）

○目的を意識し、古からの技術を実技で学んでいくことで自分自身の状態を見つめ直す機会にもなっている。特に道具づくりでは日々の手入れがどれだけ重要かを痛感するいい講座になった。（中級・上級）

令和2年度　地域連携型による伝統的大工の担い手発掘及び育成（日本の伝統的大工塾）

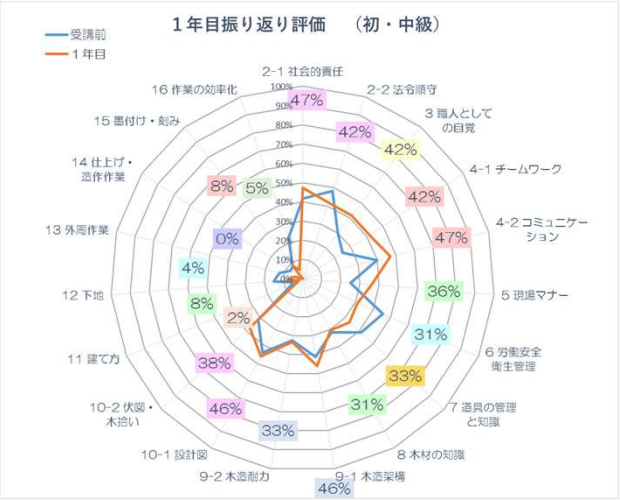
初級・中級チーム（経験ゼロ～５年未満）の活動



塾生の変化

〇大工見習い中2人と普段は建築士として働いている2人の計4人で受講している。当初はゼロベースからの出発で「どう教えるか」悩む時期もあったが、現在はひとつひとつ課題に取り組み、日々技術を磨きながら其々の仕事に活かせるよう学んだ事と毎回の発見を噛み締めている。

〇初・中級の1年目の振り返りでは、若干ではあるが成長ラインが外側に向いた。特にチームワークやコミュニケーションに変化が見られた。建て方以降のグラフについては実務経験上やむを得ないが、他の部分についてはこのまま伸びる様支援していきたい。



来年度以降の目標

☆現在は2つ目の課題（金輪継ぎで継手・仕口を学ぶ）に取り組んでいる。

☆設計・施工図の作成に必要な継手・仕口の配置、木拾いで必要な継手長さの余丁などをイメージできるようになり、実務的な伏図が自分で作図できるレベルに引き上げていきたい。

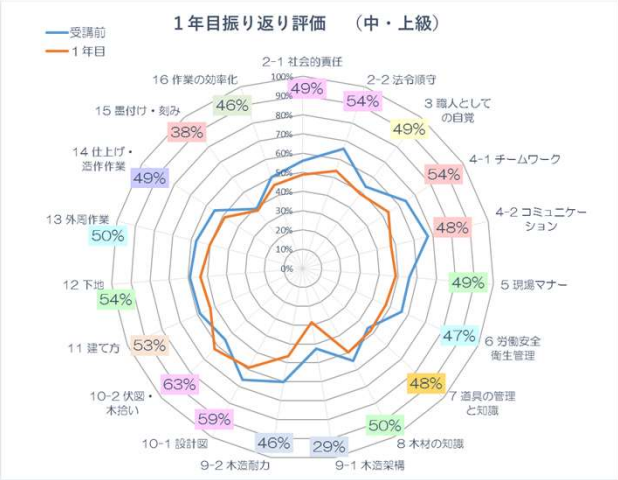
令和2年度　地域連携型による伝統的大工の担い手発掘及び育成（日本の伝統的大工塾）

中級・上級チーム（実務経験５年以上）の活動

塾生の変化

○5年以上の経験者の塾生は、一度初心に立ち返りながら伝統構法の技術を学び、自身の普段の仕事の仕方を振り返るいい機会になった。
これまでの知識が「普段の仕事のすべて」と思っていた塾生もおり、知識不足を痛感した部分もあったようだ。

○中・上級の１年目の振り返りを見ても、個人評価の仕方に変化が見られた。
全体的に当初に比べ回答の円が小さくなった。
評価の自由回答を見ても、知識・技量不足を実感し「勉強しなければいけない」と思った結果が現れた形となった。



来年度以降の目標

☆現在２×３間の小屋組パターンが違う構成の石場建て軸組を、担当割し製作してみる課題に取り組んでいる。

☆3年目の講座も含めて、減衰設計の構造を学び、刻みと建方知識を深めるために強度実験を行い、実務に最大限活かせる実技講座を初・中級と合同で開催して、塾生の設計力も向上させたいと狙っている。